

シニアライフの過ごし方 インタビュー



島田 明夫さん

JICAシニアボランティア(日本語教師)

プロフィール

58歳 役職定年を迎えるにあたり、長年勤めた会社を早期退職

69～71歳 JICAシニアボランティアとして2年間チリで日本語教師を務める

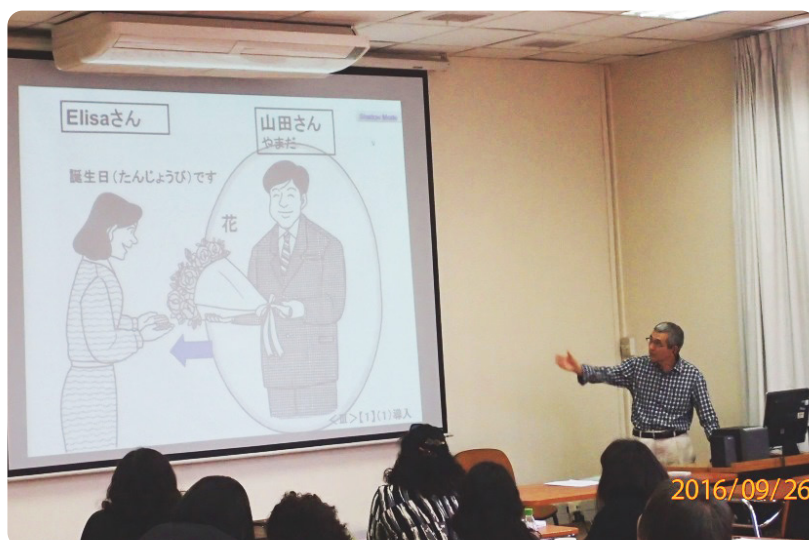
○ **派遣されるまでのいきさつを教えてくださいませんか？**

僕は60歳よりちょっと早く、58歳で会社を辞めました。

58歳で役職定年というのがありまして。会社の定年は60歳で、それから再雇用で残ることは可能でしたけど、いてももう燃えないというか…。役職定年になると資料作りとか会議への出席とか、リカバリー系の後ろ向きな仕事が増えてくるんですよ。だったらあとの2年も含め、残りの人生の時間をすべて自分で自由に使いたいと。

○ **そこから日本語教師になろうと思ったのはなぜですか？会社時代（メーカー勤務）とは異なる分野ですよね？**

僕の場合58歳で辞めても年金は63歳まで出ないし、どうしようかなあと。長く働けるようなものはないか、あとは元々語学が好きなので、外国に行けるようなチャンスはないかということをごすね、併せて考えて。実は兄も日本語教師の免許をとっていて、彼を見ていて日本語教育であればこれらが叶うのではないかと思ったんです。それで会社を辞めて



すぐに日本語教師養成講座に申し込んで、半年間のカリキュラムを終えました。

○ **身近にお手本のような方がいらしたのですね。講座を終えてから実際にボランティアに行かれるまでは間がかなり空いておりますが、その間は何を？**

最初ね、まだ講座を受講中の時に1回JICAシニアボランティアの選考を受けて、落ちたんですよ。それからJICAのシニアボランティアを最終目標にして、中国やタイの民間の語学学校で合計9年間、武者修行に出ていました。

日本語教師ってかなり大変な仕事なんですよ。直接法といって媒介語（現地語やお互いの共通言語）を使わず日本語で日本語を教えるんですが、授業時間は短くても生徒のレベルに応じた授業の準備に多くの時間を費やさなければならない。かなり勉強しないと質問にも答えられない。経験がいるんですよ。

そんなこんなで帰ってきたら応募年齢ギリギリ（当時は68歳が上限）になっていて、落ちた時は落ちた時と腹をくくって選考を受けたら通りました。

○ **長年の修行の成果が実ったのですね。チリに派遣されたのは、ご自身で希望を？**

日本語教育ボランティアの場合は、一次選考後（選考は二次まで）に候補の中からいくつか希望を出すことができます。僕が行ったときの日本語教育の派遣先のひとつにチリがあったんですね。

南米には前から興味があったんですよ。あのすごく明るい文化とか。あとは日系人が多くいるので、何か手伝いができないかなというのが頭にありました。

○ **派遣が決まってから実際に行くまでは、どのような準備があるのですか？**

赴任まではJICAで2カ月間、現地語の訓練があるんですよ。チリはスペイン語。以前趣

味で少し勉強してはいたんですけど、それが高じて一番上のクラスになって、そうしたら前にもボランティアで行った人とか、昔住んでいた人ばかりで、みんなべらべらしゃべるわけですよ。僕はそこで一番落ちこぼれで、苦労しました（笑）。

住むところはJICAが何か所か安全なところを見つけてくれて、その中から選べます。

あと、これも準備といえば準備かな…。個人的に選考を受ける前から健康に気を遣っていました。JICAは健康基準がとても厳しくて、悪いところがあるとすぐにはねられます。持病がある人を行かせて現地で身体を壊したら大変ですから。僕の場合は血圧やコレステロール値が少し高かったので、ウォーキングやストレッチなどの運動を50分くらい、毎朝、赴任してからも続けていました。

○ **資格や経験などそのものズバリに対する準備を挙げる方が多いのですが、健康な身体づくりが準備とは、新しい視点です！**

やっぱりね、これがないと何もできませんからね。

○ **厳しい訓練も終え無事に赴任されて、日本語教師としてはどこでどのような活動を？**

首都サンティアゴのチリ中央日本人会というところで日系人とチリ人に教えていました。みなさん学校や仕事を終えた後に来ますから、夕方から夜がメインでしたね。初級を日常会話レベルとすると、僕が担当していたのはその上の中級、新聞やニュースを読んだりするレベルでした。

○ **教室はどのような雰囲気だったのでしょうか？やっぱりすごく明るくワイワイした感じですか？**

実はチリの方は、気性が日本人とあまり変わらないんですよ。みんなね、おとなしくてシャイ。ラテンの明るくてワーツというようなのはあまりなくて、出しゃばらない。それは行って初めてわかったことです。

あとね、物価が高いのにも驚きました。野菜や果物は安く買えますが、レストランや服なんか東京と変わらないですよ。

○ **そういった生活事情は行ってみないとわからない部分が多いですよ。治安もひとつの都市の中でも本当に危ないエリアと安全なエリアがあったり。ご家族の方は心配されませんでしたか？**

いやそれはね、ひどい話ですけど実は会社を辞める時もまったく相談しなくて。辞めた日の夜、妻に「今日辞めたから」って話をしたんですよ。でも妻は怒らず、「これからどうするの？」って聞いてきた。それでやろうと思っていることがあるって話をして。

○ **しかしさすがに海外で生活というのは心配されたのでは？**

チリに行っている間も、あまり連絡は取らなかったですね。子供もとっくに自立しているし、妻は妻で趣味の山登りとか、好きなことしていて。お互い自由にやっているんです。

○ **お互い自由にやるにも2種類あって、顔を見るのも嫌なくらいにまでなっているから必然的に意識が外に向くのと、外を向いているけどお互いを尊重していて、ちゃんと家族として機能しているのと。島田さんご夫婦は後者ですね。**

こうなるまでには紆余曲折あったんですけどね。会社員時代は仕事ばかりで、なかなか家庭のために何かするということがなかったから。険悪な時期もありましたよ。

変わったのは、娘が結婚するとなった時に、それについて真剣に話し合ってからです。

○ **真剣なやり取りを交わせば家族は家族に戻れると。**

そうですね。そんな気がしました。

○ **シニアボランティアをしていて、どんなところにやりがいを感じていましたか？**

教え子が日本語検定受かりましたとかね、もちろんそういうのも嬉しかったですけど、一番やりがいを感じていたのは一生懸命勉強している姿を見ている時ですね。「私は勉強したい」という気持ちを感じられると、とても楽しくなります。

会社員時代も部下はいて、育つ姿は見てきているんですけど、仕事という義務の範囲とどうか、ちょっと違った感覚なんですよ。会社におけるやりがいというのは、僕は営業職だったんですけど、お客様が自社の商品を入れてくれたとか、そういう成果が嬉しいんですよ。目標達成とか。



○ シニアボランティアの前に中国やタイで日本語教師もされていたということですが、その時のお仕事の収入面はいかがでしたか？

正直、稼げる仕事ではないです。僕は中国やタイなどの物価が安い国に行っていましたし、暮らしていけばいいや、というスタンスだったのでよかったですけど。でもさっき話した通り、やりがいはずごくありますよ。

○ 会社を退職される前ですとか、このボランティアに向かう前にこれをやっておけばよかったな、と思ったことはありますか？

ITリテラシーはすごく大事ななと思いましたね。会社員時代に基本的なことは覚えたんですけど、もっとスキルを上げておけばよかったなと、色んな場面で。

たとえば資料を作ったりする時なんか、エクセルやパワポをよく使います。現地の人には手間暇かけて手作業でやっていたりするので、飛躍的に効率が上がることがたくさんあるんですよ。

あとは、スマホの操作。JICAから連絡業務のためにスマホを与えられるんですけど、初めて使ったものだからなかなかできなくて。若い人には当たり前のことかもしれないんですけど、スマホの操作ってひとつの能力ですよ。

○ 最後に。これからシニアライフに向けて何かトライしようとしている人、トライしている人に先輩としてアドバイスをお願いします！

ボランティア系であれば、私みたいのは特殊な例だと思います。まずは自治会などの地域活動への参加がおすすめです。クリーニングデー（清掃活動）とか、夏祭りとか、何でもいいんです。ちょっとしたことから足を突っ込んだ方がいい。私も会社員時代から自治会に参加しています。祭りで使う神輿を出して運んだり、結構男手が必要なんですよ。そうしているうちにみんなと気安くなって、会社を辞めても生活が楽しくなります。

あとはね、会社を辞めたらゼロクリア。退職後はゼロから出発だと思った方がいい。会社時代の地位や何かは引きずらない。周りを見ながらでいいから、何をするにしてもとにかく自分でやる気持ちでね。

【編集後記】

早期退職をされて今までのフィールドと異なる場所に行く、という冒頭部分から驚きの連続でした。定年を迎えた後にお仕事という再雇用で会社に残ることを考える方が多いと思いますが、自分のやりたいことを一度考えるというのもいいかもしれません。

悲観も楽観もせず、最終的な目標に向かって突き進む姿は印象的で、筆者にとっても有意義な時間でした。

聞き手 (株)星和ビジネスリンク 関